

# 栄光

説教

## 『最初のクリスマス』

ミカ書5章1節〜3節

ルカによる福音書20章1節〜20節

岸 俊彦

説教……………	1
特集・新しい年への 想い、願い、感謝 ……………	2
ジャイブ旧約&新約 聖書……………	5
転入会おめでとう! 田中滋子姉…………	6
追悼・ 細井栄兄……………	6
伝道師の書き込み…	7
牧師の書斎から…	7
長老のファイル…	8

「今日ダビデの町で、あなたが  
のために救い主がお生まれにな  
った。この方こそ主メシアである」  
(ルカ2:11)。

教会は、2000年間このこと  
を信じ続けてきました。このこと  
を世界中に伝え続けてきました。  
クリスマスは毎年祝うのは、私た  
ちのために救い主イエス・キリス  
トがお生まれになってくださった  
からです。そして、救い主イエス・  
キリストは、終わりの日、再び来  
てくださると約束してくださいま  
した。私たちはクリスマスをお祝  
いしながら、救い主イエス・キリス  
トが再び来てくださることを待ち望  
むのです。

クリスマスの出来事は、世界史  
の大きな流れの中で起こりまし  
た。初代ローマ皇帝アウグストゥ

ス(神聖な者)が地中海世界に平  
和と繁栄をもたらしました。彼は  
「神の子」として崇め奉られまし  
た。彼の誕生の報せこそ福音でし  
た。彼は住民登録の勅令(ギリシ  
ヤ語で「ドグマ」)を出しました。  
その勅令を実施したのがシリアの  
総督キリニウスでした。  
皇帝のドグマによって一番振り  
回されるのは、普通の人たちです。  
身重のマリアとヨセフの若い夫婦  
は旅に出なければなりません。ガ  
リラヤのナザレからユダヤ  
のベツレヘムまで150キロ、荒  
野を北から南へと縦断するので  
す。なんとか到着したベツレヘム  
は旅人で一杯でした。誰もが旅の  
疲れを癒やすために我先に宿屋を  
捜していました。「宿屋には彼の  
の泊まる場所がなかった」と伝え

られます。誰もが救い主を心に迎  
え入れる余裕がなかったと読みた  
くなる箇所です。

ベツレヘムの町の喧噪とは全く  
無縁に、夜通し野宿しながら羊の  
番をしていた羊飼いたちがいまし  
た。突然現れた天使とその軍勢が、  
世界の平和を祈る大合唱によって  
救い主の誕生を告げました。この  
場面は原文では一つ一つの出来事

をいくつもの「そして」で結びつ  
けて描かれています。素朴な文章  
です。恐らくユダヤ人キリスト者  
が救い主の誕生を世界の全ての民  
に伝えたいと思つて、当時の共通  
語であるギリシヤ語で記しました。

天使に告げられたことが本当か  
どうか確かめるため、羊飼いたち  
はマリアとヨセフ、また飼葉桶  
に寝かされていた赤んぼうを捜し  
当てて、天使が語ったことを人々  
に知らせました。羊飼いたちが知  
らせてくれたことを、誰かが素朴  
で美しい詩文にまとめて私たちに  
プレゼントしてくれたとしたら、  
それこそ素晴らしい神からのプレ  
ゼントです。

「いと高きところには栄光、神  
にあれ、/地には平和、御心に適

う人にあれ」。

クリスマスは、御心に適う人へ  
のプレゼントです。御心に適う人  
とは誰でしょう。マリアとヨセフ  
でしょうか。羊飼いたちでしょ  
うか。仕方がなかったとしてもマリ  
アとヨセフを泊めなかった人々  
は、御心に適う人ではないのでし  
ょうか。

「恐れるな。わたしは、民全体  
に与えられる大きな喜びを告げ  
る」。この民全体とは全ての民で  
す。私たちは、神に似せて造られ  
た、本来御心に適うように造られ  
た者なのです。神が喜んでくださ  
る存在なのです。全ての民が神に  
似せて創られ、見守られ、愛され、  
神が私たちと共にいてくださいま  
す。このドグマ(教会の教え)を  
信じられない私たちのために、御  
子イエス・キリストがこの世界に  
来てくださいました。私たちが神  
に喜ばれる存在であり、また神に  
喜ばれる存在になるようにと、神  
と私たちとの平和、私たち同士  
の平和を実現するために、その命を  
十字架に注いでくださったのが私  
たちの救い主、全ての民の救い主、  
御子イエス・キリストです。

# 新しい年への 想い、願い、感謝

日付が一日変わっただけ…。  
特に「気持ちを新たにすることもない」  
という方もいるでしょう。  
それでもやっぱり新しい年の始まりは  
嬉しい気持ちになるものです。  
どんなことを想って始めましょうか。



## 私のモットー

岩井直子

3年ぶりの『栄光』の原稿です。年令と共に種々…鈍感ゆえ体力の衰えはさほど認識せずにいるのですが、目の疲れと肩こりに悩まされます。この3年で2人の息子もそれぞれ家庭を持ち、長男は父親に、次男はホテル勤務をしながら京都で浄土宗の住職として寺を守っています。日頃私は主人と2人の生活ですが、教会生活を守り、その他自分の時間もしっかり確保して相変わらずの家外です(家内ではない)。

今はストーブリーグのため、これでもおとなしくしていますが、シーズンが始まると野球観戦に応援に、熱中する日々です。結果に一喜一憂もありますが、チームの活躍に私もエネルギーをもらい、ヒーローインタビューでの言葉にはクスツツしたり、重みを感じたりもします。時には選手の気の利いた言葉が語録になって残っても

いきますが、その中に特に心に残る文言があります。

「無理せず、急がず、はみ出さず、自分らしく、淡々と」

応援しているチームの監督もされた方の言葉です。ちゃんと自分のペースで歩いているか、結果を急いで走りすぎているか、壁にぶつかっても他人を羨ましいと思っても取り乱さず、自分らしく前を向いて歩いているか。

前回の『栄光』に「神様に喜んでいただけるカッコ良い生き方」をモットーに、と大口をたたいた私ですが、周りのどんな方にも敬意を払える人でありたい、そしてこの元監督の言葉。

嬉しいことに、様々な環境や年代の方と交流の機会をいただき、特に教会での皆様との交わりは賜物に思えます。買い物時の店員さんにも、狭い道を運転中に立ち止まって通過するのを待ってくださる方にも、敬意と感謝を持って振る舞える心のゆとりと共に、これらのモットーを私の心の基に置いて行動できますように、神様の励ましとお守りを祈っています。

## 新しい年に思いつくこと

大橋ゆり

子供の頃は、いつも特別感に満たされ迎えていた新年ですが、いつの頃からか特に何かを期することもなくなってしまうました。しかし、2020年は少々違います。

今年私は還暦を迎えるからです。これまではネズミ年が巡ってくる、「年女です!」と嬉しそうに書いていたのですが、今年は年賀状を書いている、嬉しさよりプレッシャーを感じてしまいます。

ここ数年、10月に大学の秋休みを利用して二週間弱ウィーンを訪ねるのが、恒例になりました。2014年の海外研修の際に師事した先生のレッスンを受けるほか、劇場でオペラを観たり、当地の友人に会ったり。毎日あまりにも楽しく充実しているのです、いつも心を残しながら帰国の途に就くこととなります。レッスンでは、留学時の学びをいかに忘れてしまっているかを突きつけられて愕

然とし、改めて軌道修正してもらうのが常です。また、友人たちと互いの近況や仕事の悩みなどを語り合う中で、おのずと一年を振り返ることになります。忙しい普段の生活では忘れがちな内省の時間が与えられるのも、ウィーン滞在中の恵みです。

渦中であつたその時々には余裕がなかつたけれど、これまでの約60年をかえりみる時、健康が支えられ、様々な学びの機会を与えられ、自分の道を追求してこられたのは、神様のお支えがあつたからこそと感謝に満たされます。

「わたしは、自分の置かれた境遇に満足することを習い覚えたのです。貧しく暮らすすべも、豊かに暮らすすべも知っています。満腹していても、空腹であつても、物が有り余つていても不足していても、いついかなる場合にも対処する秘訣を授かつています。わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です。」  
フィリピの信徒への手紙4章のみ言葉を心に留め、新しい年を歩んでゆきたいと願うものです。

## 生ける限り主を讃えよう

岡田 基

胆管ガンの摘出手術を受けた際、余命5年を宣告されたのですが、それから12年も生かされています。

『ハイデルベルク信仰問答』の間27は「健康も病も神の摂理による」のだと語り、続く問28では、「神の摂理を知る事で逆境では忍耐強く、順境に在つては感謝に溢れる」と言うのです。

自己中心的で我儘な思いに向かいがちな信仰弱い僕にとつて、病気という逆境の中で謙虚にされ、神への信頼を強く教えられたことは貴重な体験でした。

宣告された余命年数を大きく超えて更に長い年月を生かされている今日、毎週の礼拝を通して神への献身の思いが新たにされ、「生かされている限り主をほめ讃えよう」(詩編146編)の心境に到っています。

神の存在を無視し、主日礼拝の必要を退け、十戒を軽視して、山

上の説教を「なんだこれは」と笑い飛ばす友に、こんな僕にも御手を差し伸べてくださった救い主について知って貰いたいです。

□下手で語るのに疎い自分が出ることは何かを考えた時思い出すのは、使徒言行録4章に登場する40歳過ぎとだけ書かれた無名の不自由な足を癒された人物です。

復活のキリストを力強く語るペテロ、行動を共にしてペテロを支えるヨハネ、それに加えて、ペテロたちに不自由であつた足を癒された40歳過ぎの男も伝道の働きを担つたのです(使4・14)。

彼は何も語ってはいません。ただ黙って癒された姿を見せているだけです。一言も語らない無言の伝道者です。癒された男のポイントは、主イエスの聖名によつて喜んで生きることであり、主イエスによつて生かされていることです。

黙って其処に居るだけで伝道になることは決して生易しくはありませんが、毎週の主日礼拝を決まった場所で捧げることによって、自分の背中を見て教会に繋がる方が居てくださるのを祈るだけです。

## 毎日楽しく

河野昌子

今年は、2020年、令和2年です。昨年は、「2019年と言うよりは令和元年」という1年でした。今年も、令和ではありませんが、東京オリンピックの年にあたり2020年と言う年になることでしょう。

元号と西暦両方を使う日本ならではのですが、2020年の新しい年の私の目標は、毎日楽しく過ごすことです。

3年前、日曜日の礼拝に参加することが少なくなっていた私が、西南支区婦人部委員長になり、教会生活を優先することになりました。神様が、教会に戻る機会をくださったと思っております。

西南支区婦人部の委員になり、毎月1回、西南支区婦人部委員会と、東京教区委員会への参加と、西南支区常任委員会への陪席参加が、私の毎日の生活に加わりました。

西南支区内の他教会や、東京教区内他支区の教会、全国教会婦人会連合活動に参加することになり、全国の教会を訪れたり、ご婦人方と交わる機会を頂きました。

私は、一人っ子だったため、クリスチャンになり兄弟姉妹が沢山できてうれしく思っておりますが、更に全国へ兄弟姉妹が広がり、毎月の委員会や集会への参加が楽しみになりました。また、聖書を読んだりレポートを書く会に参加することにより、聖書をゆっくり読む時間ができ、避けていた旧約聖書を読み直す機会もできました。

ミッションスクールに通っていたため、学生時代に聖書の勉強をしたつもりでしたが、まだまだ足りないことを多くの姉妹と話すことで気付きました。

神様は、迷子になった1匹の羊を見捨てなかったように、迷子になりそうだった私を教会に戻してくださいました。

神様に守られて、毎日楽しく今年も過ごせることを祈っております。

## 再会の楽しみ

尾藤美紗子

私が新年はどんな年にしようかと考えるのは、年賀状の文面を検討する時だ。この数年「来年は小・中・高・大学の仲間や会社の元同期たちと会って話す時間をできるだけ作る」と思い続けている。

人生100年時代と言われる現代、それを基準にすると私は既に半分生きたことになる。体力も気力もまだまだ自分では大丈夫と思えるものの、着実に衰えは近づいているだろう。残りの人生、元気なうちに昔の仲間と再会し、久しぶりにゆっくりいろいろ話したい。

そう強く思うようになっていく。誰しもそうだと思うが、大人になると仕事や結婚、様々な事情で住所や環境が変わり、それぞれ年賀状のやりとりだけが続けている仲間も少なくない。一般的には子育てが終わる年代、同時に家族の介護等で大変な年代でもあるが、この年代の今だからこそ話せるこ

ともあると思う。会っていない時間が長い分、人生経験を積み重ねた分、より深く話せる気がするからだ。SNS等で近況を伝えやすい時代にはなったが、たとえ1年に1度でも直接顔を合わせるこの大切さを感じる。

2019年は特にこの思いを実感した年だった。最大の出来事は中学校卒業40周年記念の大同窓会開催。台風の影響で欠席者が出てしまったのは残念だったが、当時の担任・部活顧問の先生計6名と卒業生約130名が出席したのである。同級生との40年ぶりの再会もあり、お互いに驚き喜びながら、先生方や同級生と一緒に校歌を歌い、思わず涙が出そうになるほど感動した。

だから今年も旧友たちとの時間を持つたらと思う。学生時代を共に過ごした仲間とは一瞬にして青春時代に戻り昔話で笑い転げられるし、互いに今の自分の状況を伝えることで共感し合える、かけがえのない存在なのだから。

今までのたくさんさんの出合いを神様に感謝しつつ、新年の再会を楽しみにしたい。

# 2019年クリスマス 教会学校「ジャイブ旧約&新約聖書」



教会学校では、聖書全66巻を暗記できる『ジャイブ旧約&新約聖書』の歌と踊りを披露しました。この演目の初演は22年前。CS教師によるパフォーマンスでした。当時は新約聖書のみでしたが、今回旧約聖書を学習中のCSのため、内藤慎也兄がバージョンアップしてくださいました。子どもたちはこれからずっと、繰り返し繰り返しこの歌を口ずさんで聖書を開くのでしょう。なんとという希望、なんとという喜び！

作品の要を見事に務めた狩野伝道師、3歳から高校生のCS生徒たち、教師たちも、とても輝いていました。  
(石室優子)

作詞・作曲 内藤慎也

## 『ジャイブ旧約&新約聖書』

### 【1番】

「創」「出」「レビ」「民」「申命」「ヨシュア」に  
 「士師記」に「ルツ記」に「サムエル記」  
 「列王」「歴代」「エズラ」  
 「ネヘミヤ」「エステル」「ヨブ記」  
 「詩編」に「箴言」「コヘレト」「雅歌」に  
 「イザヤ」に「エレミヤ」  
 「哀歌」に「エゼキエ」「ダニエル書」  
 「ホセア」に「ヨエル」(もうちよいあるよ)  
 「アモス」に「オバデヤ」「ヨナ」「ミカ」「ナホム」に  
 「ハバクク」「ゼファニヤ」  
 「ハガイ」に「ゼカリヤ」「マラキ」 旧約聖書  
 旧約 旧約 旧約聖書は39巻  
 新約合わせて全部で聖書は66巻  
 旧約 旧約 メシアを待ってる  
 神様が御子を地上に くださる預言

### 【間奏】

トウトウル・トウトウル トウトウル・トウトウル  
 (一応、新約聖書も 覚えとこう)

### 【2番】

「マタイ」に「マルコ」に「ルカ」「ヨハネ」に「使徒」  
 「ローマ」に「コリント」「ガラテヤ書」  
 「エフェソ」に「フィリピ」「コロサイ」  
 「テサロニ」「テモテ」に「テトス」  
 「フィレモン」「ヘブライ」「ヤコブ」に  
 「ペトロ」に「ヨハネ」は3つ  
 「ユダ」に「ヨハネの黙示録」 新約聖書  
 新約 新約 新約聖書は27巻  
 旧約合わせて全部で 聖書は66巻  
 新約 新約 キリストの証し  
 神様が御子を通して 語られた

～【1番】くりかえし～

### 【ラストサビ】

旧約 新約 キリスト以前が旧約  
 イエス様生まれたあとに 書かれたのが新約  
 旧約 新約 神様の言葉  
 預言者と御子を通して 語られた  
 旧約新約 旧約聖書 新約聖書 フー

## 転入会おめでとう！

## 転入会に思う

田中滋子

令和初のクリスマスに経堂北教会に転会させていただき感謝です。昨年住み慣れた大阪を離れ経堂に転居してきました。3年近く前に夫が天に召され、世田谷に住む娘の近くに来ることにしました。私は今まで2つの教会に通いました。25才の時、扇町教会の中路嶋雄牧師から洗礼を受けました。先生は優しく、私財を教会に投じた無欲無私の愛の人でした。私は、中路牧師と同じ村で育ち洗礼を受けた同級の友人に導かれました。私が今まで信仰を守ってこられたのは強い信仰を持った友人と夫のお陰で感謝の言葉以外ありません。夫がおりました森小路教会への転会は、娘が天に召されたためでした。私は娘が3人いますが、三女男子は難病を患い34才で天に召されました。娘3人は小学生の夏

休みにYMCAの海洋キャンプに参加し、明子はキャンプリージャーに憧れ、大学4年間ヨット、スキー、テニスと忙しく青春を謳歌していました。就職前、突然原因不明の難病と診断され、何故と問い祈り続けた12年間でした。活発で明るく優しく、ただ生きたことだけを望み、家族に心配をかけないように耐えて辛いと一言もいわず過ごしていました。祈りは届かず旅立ちました。共に過ごした34年は病気であっても幸せな日々で、家族として与えられて感謝でした。明子が亡くなる2日前に森小路教会の黒米牧師が病床で洗礼を授けてくださり心から感謝しました。その後、扇町教会の牧師夫人から家族一緒に礼拝をと助言があり、森小路教会に転会しました。神は私の願いを全てご存知で備えてくださいました。新居の近くに経堂北教会があり、親切に寄り添ってくださる人がいます。クリスマスイヴのハレルヤは圧巻で天国まで届いているようでした。神のみ心は計り知れませんが、この教会にめぐり会えたのも神の恵みで、喜びと共に感謝申しあげます。

## 追悼

## 栄叔父を偲んで

故・細井 栄兄

叔父はクリスチャンの細井勇・登志代の長男として東京の本所で生を受けました。姉2人、弟と共に幼少期からは、大阪帝塚山で育ちました。家族揃って姫松教会の礼拝を守っており、私の母・潤子は「食事の時等、賛美歌を歌い、感謝の祈りを欠かさなかった」と当時のことを話してくれました。1938年3月に大阪府立中学校を修了し、小田急線の成城学園に転居。玉川学園旧制中等部在籍していた17歳の頃、経堂北教会で村田正亮牧師から、姉の晴子と共に洗礼を受けたそうです。早稲田大学卒業後、NHKに就職し結婚後は3人の娘を授かりました

なり、インマヌエル会にも積極的に加わりました。会堂の掃除も夫婦揃って奉仕していました。帰りにすずらん通りの古本屋に立ち寄り、本を購入していたそうです。誰に対しても、柔和、寛容で家庭にあっても奥様を大切にし、子煩悩で誠実であった叔父は、亡くなる3カ月前に、弟の光叔父の孫のテオドラカキス君が、見舞いに行った折り、互いにフランス語で会話をしていたそうです。特に驚くのは見た目からは想像できない強い身体です。空手も嗜み、大きな病気や怪我など、したことがありませんでした。葬儀は教会で執り行われましたが、母親（登志代）の旅立ちの時とよく似た、安らかな顔で御許に召されました。今は、御国で親子6人が和やかに賛美歌を歌いつつ歓談しているのではないかと思っています。「どうぞ残されている家族を見守っていてください」とお祈りします。叔父を知る私の教友から「栄様は、本当にお優しい方でしたね」とお悔やみのメールをいただき癒されました。(柳原温子)

## 伝道師の書き込み

牧師室には1953年から60年以上も続く『栄光』のバックナンバーが置かれています。『栄光』の原稿を準備しているとき、書くことが何も思い浮かばなかったり、煮詰まったりしはじめると、ここ十年くらいのを引っ張り出して読んでいます。別に読んだことを原稿に活かせるわけでもなし、やっていることは半ば逃避行動なのですけれども。引っ張り出

## 牧師の書斎から



クリスマス祝会で披露された「ジャイブ旧約&新約聖書」は、1997年の「ジャイブ新約聖書」のリメイクでした。22年の歳月を感じます。

かつて踊り歌っていた青年たち子どもたちが、同じように踊り歌っていました。1人は小学1年生で、友達を連れてきて一緒にキレの良いダンスを披露していました。もう一人はやや照れているよ

したバックナンバー全てを精読などは流石にしません。必ず読むのは、私と同じように伝道師として赴任した先生方が、同じ時期にどんなことを書いていたのかです。

今月も書くに困って、以前の伝道師がどんなことを書いていたのか、読み直してみました。年の初めなので当然と言えば当然ですが、1月は前年の歩みを振り返る記事であることが多い。伝道師3年目ともなれば、もう正教師試験も按手礼も終わって、晴れて副教師として訪問聖餐に繰り出してい

うにも見える高校3年生。

その頃のCSは教師も含めて平均出席は47人。今は19人。その半分は大人です。以前学年に1人しかいなかった高校生が、このままだとCSは消えてしまうと『CSだより』に書いていました。その小学校の同級生が、不思議なことに今は毎週礼拝に出席する一人です。30年以上も前のCSキャンプに参加している写真が見つかりました。

かつてCS校長と牧師は踊りについていけないのが売りでした。

る時期です。1月号3回分で目まぐるしく変わっていく伝道師たちの近況に少しめまいを覚えました。

そんな歴代伝道師の記事を読んだことに触発されて、自分の今まで書いてきた『栄光』の文章も読み返しました。毎月冊子の完成版が手元に届いても、他の皆さんが書いている文章は楽しく読ませていただくものの、自分の書いたものは読みません。自分の書く文章というのは、どうも好きになれない。それでもネタにしたいので、胃液がこみ上げてくるのを抑えつ

青年の頃ノッて踊っていた今の校長も今回の録画を見ると、やや危なっかしい。年のなせるところなのでしよう。それに比べたら伝道師は、若さのゆえか、賜物か、実に堂々としたものでした。

CS教師の一人は、現在岐阜で書記として教会を支えています。他の二人は結婚して宇都宮教会の牧師夫妻。その長男は今年成人式です。成人祝福式の案内を出しましたがどうなるでしょう。

忙しい日々の中、この教会の長老として奉仕する者もいます。

つ読み返しておりました。意外と忘れていたことも多く、過ぎた1年は短いけれども、こうしてきちんと振り返ると色々あったものだと思います。

思えば私が経堂北教会で初めて説教したのも、もう1年前のことでした。それからおおよそ1年、共に同じ御言葉に聞く群れの中で歩むということ、しかも説教者としてそれをすること。その特別さを感じる1年だったと思います。これが私に与えられた、今年一番の恵みでしょうか。(狩野進之佑)

20年後、このクリスマスで踊り歌った子どもたちや青年はどうしているのでしょうか。

私たちの願いや計画をこえて主は最善のことをしてくださいませ。主が育ててくださいませ。誰かが収穫に与えることでしょうか。私たちはその時の来ることを信じ、待ち望みます。毎日曜日共に教会に集い礼拝し、御言葉に聞き従います。祝福されてそれぞれの場に出かけます。主の栄光のために働き、主を愛し、隣人を愛します。共に主を賛えませう。(岸俊彦)

## 個人消息



## 長老のファイル

2019年度最後の長老会は、クリスマス礼拝で田中滋子姉を迎える転会についての承認から始められました。主が招いてくださった姉妹は、大阪より娘さんのいる世田谷に転居してこられました。教会を思索されていた折、天国にも導かれるような美しい賛美の歌声にひかれ、「この教会で東京での教会生活を始めよう」と、その時、決心されたそうです。

私はお話を伺いながら、ふと自分がこの教会に転会した日のことを思い浮かべていました。長谷川真美子先生に導かれて何の迷いもなく、この教会の一員に加えていただき、この教会で歩んでいくことに、ためらいがなかったことが田中姉と同じだと思いました。主が導いてくださったと確信できたからでしょう。教会員が加えられることは嬉しい恵みです。承認はスムーズに進み、クリスマス礼拝で教会員皆でお迎えすることが出来ました。

しかし、この長老会で岸先生より、教団の信徒総数のグラフが提示されました。1994年から2018年までのわずか24年間のグラフですが毎年確実に減少して、受洗者数は1994年の半分という結果も示されていて愕然としました。もっと周囲の人々に証していかなくてはならないことが神様から私たちに示されていると強く思わされたのでした。

教会員皆で心合わせて主のご降誕を喜び合い、互いに恵みを分かちあう時となるようにと、長老間でも丁寧に確認がとられました。そして、クリスマスは、喜びの内に教会員皆で互いに主にある幸いを感謝する時として本当に和やかに過ごすことができました。

さあ、新しい年が始まります。平和な世界、子どもも大人も笑顔で過ごせるように。オリンピックが無事行われますように祈りつつ。

(千葉一恵)

## 掲示板



- もちつき 2月2日(日) 礼拝後
- 図書茶話会 2月16日(日) 礼拝後  
お話 狩野進之佑伝道師
- 教団宣教方策会議 2月24日(月)～25日(火)  
於 富士見町教会

## 編集後記



▽1週遅れの1月号をお届けします。今年も教会の内外的のために、皆で祈りを合わせていけますように。(沢田)

「栄 光」2020年1月号  
 日本基督教団 経堂北教会  
 〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-21-11  
 電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038  
 牧師：岸 俊彦 伝道師：狩野進之佑  
 編集：栄光編集委員会  
 Email：kyodon@nifty.com  
 HP：http://kyodokita.life.coocan.jp